

◆研究者：坂本 毅治(カキト タケル) 先生 / 関西医科大学附属生命医学研究所 がん生物学部門

◆研究テーマ：多臓器連関を標的とした新規化学療法最適化法の開発

◆助成金額：100 万円

1：研究者になろうとしたきっかけ

私は獣医学専修の出身で、大学4年生から研究室配属になり6年生まで卒業研究を行いました。その中で、仮説を立て実験・解析で仮説を検証するプロセスや、思ってもいなかった結果が出たときの悩ましくも面白い体験が忘れられず、そのまま博士課程に進学しました。

2：助成研究の内容紹介

細胞傷害性抗がん剤を用いた化学療法は現在も多くのがんで使用されていますが、副作用やがんの抗がん剤への抵抗性獲得が問題です。近年、がんと様々な正常臓器のコミュニケーションががんの進行や治療成績に影響を及ぼすことが報告されてきています。そこで本研究では、化学療法の際にがんと正常臓器間のコミュニケーションがどのように変化するかを明らかにし、その変化に介入することで化学療法の改善を目指します。

3：2の将来に繋がる結果予想・目標

多くのひとに適用できる細胞傷害性抗がん剤による化学療法を、より安全でより効果的に用いることが出来るようになることを目指します。

4：全国のRFL関係者に一言メッセージ

この度は多くの応募課題のなかから本研究を採択して頂き誠にありがとうございます。かなり基礎的な研究ではございますが、その先にごん患者さんへの希望に繋がるよう頑張ります。